

遺体 明日への十日間

君塚良一／2013／105分／日本

彼らには、悲しむ時間さえ無かつた

東日本大震災で被災した岩手県釜石市の遺体安置所で、遺体を家族のものと帰そうと奮闘する被災者たちの姿を描く。原作は石井光太のルポルタージュ『遺体・震災、津波の果てに』。主



© 2013 フジテレビジョン

今日子と修一の場合

奥田瑛二／2013／135分／日本

あなたにはつなぎとめる愛がありますか

モントリオール世界映画祭グランプリ受賞作『長い散歩』などの奥田瑛二が、娘の安藤サクラとその夫・柄本佑を主演に迎えた人間ドラマ。東日本大震災を背景に、それぞれ心の問題を抱えた男女が、帰郷できない現実にぶつかりながらも人生をやり直そうと懸命に生きるさまが描かれる。和田聰宏、宮崎美子、平田満ら実力派が共演。



© ZERO PICTURES

故郷よ

ミハル・ボガニム／2011／108分／フランス、ウクライナ、ポーランド、ドイツ

大地は失われても、この愛は消せない

チェルノブイリ近郊の立入制限区域内で初めて撮影された、切ない人間ドラマ。原発事故により突然故郷を追われるることを余儀なくされた人々の事故当日とその10年後の物語。監督はこれ



© 2011 Les Films du Poissons

谷川さん、詩をひとつ作ってください。

杉本信昭／2014／82分／日本

言葉はそこに 溶けている

同じ国の同じ時代に生きる、それぞれの暮らし、それぞれの言葉に、詩は向き合えるか？ 詩人・谷川俊太郎が東日本大震災について書いた詩「言葉」を入り口として、様々な土地で暮らす

人々が発するかけがいのない言葉を追い、そこには喜びや悲しみから再び谷川の詩が生まれるまでを描いたドキュメンタリー。



© 2014 MONTAGE Inc.

波伝谷に生きる人びと

我妻和樹／2014／134分／日本

三陸の小さな漁村。海とともに生きる人々、震災までの3年間

宮城県南三陸町の海沿いに位置する戸数約80軒の波伝谷部落。東日本大震災による津波で壊滅したこの小さな漁村に生きる人びとの、震災前の日常を追ったドキュメンタリー。「人が生きていている限り、人の営みは続いている」。震災前から東日本沿岸部の人の営みを見続けてきた監督が、震災を経験した日本人に贈る入魂の一作。



© 2014 DOCUMENTARY JAPAN

フタバから遠く離れて 第二部

船橋 淳／2014／114分／日本

町長交代、避難所閉鎖までの1,111日。報道では決して伝わらない人々の声が突き刺さる。

福島第一原発事故により避難を強いられた、福島県双葉町を追ったドキュメンタリーの続編。帰宅困難区域に指定され、さらには中間貯蔵施設の建設計画が出されるなど、事故に起因する

様々な問題が大きな影を落としていく双葉町。答えの出ない状態のまま、長い避難生活を強いられる町民の報道では伝わらない声が突き刺さる。



© 2014 Big River Films

無知の知

石田朝也／2014／107分／日本

ひとりの無知な男が聞いてみた。あのときのこと、これからのこと。

2011年、福島第一原発事故。あのとき原発はどうなっていた？ その後、避難せざるを得なかつた人々はどう暮らすか、原発はこれからどうなる？ 疑問に感じた監督が、福島に住む人、政治

家の、専門家など様々な人にインタビューの旅に出る。見えてきたのは、それぞれの立場から描き出される日本の未来の設計図、そしてそれぞれの正義だった。



© 「無知の知」製作委員会2014

遺言 原発さえなければ

豊田直巳・野田雅也／2013／225分／日本

福島の3年間一消せない記憶のものがたり

震災翌日から800日にわたり福島第一原発事故の被災者たちに密着し、その苦悩を見つめたドキュメンタリー。絶望の淵からの試行錯誤、もがきの中で気づいた家族、仲間、奪われた故郷へ

の思い、そして見えてきた本当に守るべきもの。3年にわたり記録された250時間の映像が、3.11後を生きる私たちに問いかけるものとは――？



© NODA Masaya

名作がたくさん!!

—第二回 3.11 映画祭 上映作品—

5年目の3.11と 様々に向き合う全28作品

東日本大震災や原発事故の問題を映したもの、 Chernobyl のブレイブ・アンド・ブリーフ、阪神淡路大震災、そして3.11以降の社会を考えるために今観るべき作品など、幅広くセレクトしました。



全国のレンタルショップで借りて観ることのできる作品もあります。
会場に来られない方も、レンタル店で借りて、ツイッター（#311）で感想を寄せてください。
※店舗によって入荷していない作品もございます。予めご了承下さい。

未来をなぞる 写真家・畠山直哉

畠山容平／2014／87分／日本

被災のはてに1人の写真家が見た未来への希望とは？

世界的に活躍する写真家・畠山直哉。東日本大震災で陸前高田市の実家が流され、母を亡くして以来、彼は頻繁に故郷に戻り、変貌する風景を撮影してきた。まもなく震災から4年。



家路

久保田 直／2014／118分／日本

ここで、生きていく

3月11日ーあの日、故郷を失った家族の再生の物語。音信不通だった弟の20年ぶりの帰郷をきっかけに、バラバラになった家族が数々の試練を乗り越えながらも再び絆を取り戻していく



ナオトひとりっきり Alone in Fukushima

中村真タ／2014／97分／日本

原発12キロの町に一人残り理想郷を作ってしまった男の奇想天外なドキュメンタリー。ダチョウ、牛、猫、犬、イノブタ、そして男がひとり……。原発事故で誰もいなくなってしまった町には、緑があふれ、動物たちがのびのびと暮らしている。福島第一原発から12キロにある富岡町に



天に栄える村

原村政樹／2013／106分／日本

この土地で生き、田畠を未来へ受け継ぐために。

日本一美味しいお米が実る福島県天栄村で、安心・安全な美味しいお米を作ってきた米農家たち。しかし、福島第一原発事故で放出された放射性物質により、彼らの大切な田畠は汚染さ



祭の馬

松林要樹／2013／74分／日本

津波と原発を生きのびた或る馬の、数奇な運命。

東日本大震災を生き延び、数奇な運命を歩む一頭の馬を優しいまなざしで見つめたドキュメンタリー。映画は、馬と人とが培ってきた長い歴史を紐解きながら、とんでもない時代に生き



© 2013 記録映画「祭の馬」製作委員会

100,000年後の安全

マイケル・マドセン／2009／79分／デンマークほか

未来のみなさんへ ここには決して入らないでください。

10万もの耐久性があるという世界初の放射性廃棄物の最終処分場を造る。フィンランドのオンカロ・プロジェクト。だが、10万年の安全を誰が保障できるのか？ コンセプチュアル・



その街のこども 劇場版

井上剛／2010／83分／日本

それでも、行かなんだめなんです。

阪神・淡路大震災15年NHK特集ドラマが異例の劇場作に。子どもの頃に阪神・淡路大震災を経験した男女が、神戸で偶然知り合い、震災当日から15年の朝と共に迎える姿を描く。実際に



© 2010 NHK

ミタケオヤシン

江藤孝治／2014／80分／日本

準備はいいか？

現代美術家・加藤翼が2013年に行なったアートプロジェクトの記録。寝かせた状態の巨大な建造物を作り、ロープでそれを引き起こす「引き興し」という参加型アートプロジェクトを通じて、ア



サバイビング・プログレス 進歩の罠

マチュー・ロワ／2011／86分／カナダ

21世紀を生き抜くための選択とは？

人口増加や大量消費社会、地球環境破壊など問題が山積みの世界で、21世紀を生き抜くための選択とは？ スティーヴン・ホーリング博士をはじめ最先端の学者や思想家たちが人類の



© 2011 Cinemaginaire Big Picture Media

Jeffrey Jousan特集

ジェフリー・ジョーサン／2011～2014／短編4本 計84分／日本

ジェフリー・ジョーサンが捉えた3.11 短篇集

復興に取り組む人物たちを中心に毎年定点観測的に石巻を撮影し続けている「ISHINOMAKI zero」シリーズや、被災者の「笑う」姿をモニタージュした「笑う東北」など、ジェフリー・ジョーサンの作品はマスコミが捉えきれない、被災地の「もう一つの側面」や遅しさを浮かび上がらせる。(松村豪太・石巻2.0)



19862011

小嶋裕一／2013／58分／日本

27年目の Chernobylへ。福島第一原発跡地の観光地化を探る旅。

2013年4月、『福島第一原発観光地化計画』メンバーによる Chernobyl 取材のドキュメンタリー。震災後それまでの手段で3.11と向き合ってきたジャーナリストの津田大介、いわき市



撮影:新津保健秀

日本と原発

河合弘之／2014／135分／日本

なぜ弁護士がドキュメンタリー映画を作らねばならなかったのか？

脱原発裁判の先頭に立つ弁護士が、裁判闘争の限界を打破するためにあえて世に問う原発のすべて。丸2年の歳月をかけ、ふたりの弁護士が多くの原発関係者、有識者にインタビュー取材を敢行。事故に巻き込まれた人々の苦しみ、原発事故を引き起こした背景、改善されない規制基準など、エネルギー政策のウソと真実を追求する。



幸せの経済学

ヘレナ・ノーバーグ＝ホッジほか／2010／68分／アメリカほか9カ国

人と自然とのつながりを取り戻す！

「グローバル」から「ローカル」へがキーワード。ヒマラヤの辺境・ラダックに押し寄せる近代化的波。西欧の消費文化は彼らの伝統的な生活スタイルを一変させ、そのアイデンティティー



© ISFC

や伝統文化の誇りまでも奪ってしまった。消費文化に翻弄される人々の姿をモチーフに、本当の豊かさとは何かを説くドキュメンタリー。

地球にやさしい生活

ローラ・ガバート、ジャスティン・シャイン／2009／92分／アメリカ

電気を消して家族と過ごそう

世界一「便利」な街ニューヨークで、環境に全く影響を与えないで生きるという「不便」な生活に挑む主人公、コリン・ノーブルが、エコな生活をして見てきた新しい生き方とは？ 妻と子供と



の生活はどう変わったのか？「ニューヨーク・タイムズ」など各紙が注目し、サンダンス映画祭で話題になった笑って泣ける物語。

パンドラの約束

ロバート・ストーン／2013／87分／アメリカ

環境保護から原発を考える

長年にわたって反原子力を題材にした映画を手がけながらも、やがて原子力支持派へと立場を転じた監督によるドキュメンタリー。なぜ彼らは原発を肯定するのか？ 地球環境保護論



© Pandora's Promise, LLC

者たちの視点とは？ まさに「パンドラの箱」を開けてしまった時のように、エネルギーを考えるあらゆる立場の人々に衝撃を与えた問題作。

ASAHIZA 人間は、どこへ行く

藤井 光／2013／74分／日本

福島県南相馬市原町区、「朝日座」。劇場をめぐる観客たちの90年の物語。南相馬の閉館した古い映画館「朝日座」をめぐる人々のドキュメンタリー。震災以降も街に残る人、街を離れた人などに朝日座の記憶を語ってもらい、彼らや東京からのエキストラたちが、



© SPC peak performance

ミツバチの羽音と地球の回転

鎌仲ひとみ／2010／135分／日本

日本のエネルギーをどうするのか？

原発建設計画に長年向き合い続ける瀬戸内海祝島の人々と、脱石油、脱原発建設を決め、自給エネルギーへとシフトし、持続可能な社会作りが進む北欧のスウェーデン。



東北ライブハウス大作戦ドキュメンタリームービー

木村真生、番場秀一／2014／93分／日本

あなたにとってライブハウスとは何ですか？

ライブエンジニアチーム「SPC peak performance」を中心に、被災地復興の為、人と人が出逢い、繋がる『場』を作るべく、音楽の力を信じる仲間たちとともに、津波被害を受けた宮古、

大船渡、石巻の3地域に新たなライブハウスを作るプロジェクト【東北ライブハウス大作戦】のドキュメンタリー。

東北ライブハウス大作戦





little forest 冬／春
森 淳一／2014／112分／日本

東日本大震災後4度目の夏、異常気象が当たり前にないつある夏、原発が1基も稼働していない夏、この映画が静かにぼくの目に舞い降りた。舞台は東北の里山。そこには何百年と続いた豊かな自然とそれに寄り添う暮らしの基本形がある。そんな伝統文化の宝庫の中に、主人公のいちは迷宮と分け入ってゆく。これは日々の食事を描くスローフード映画だ。食べることは生きること、スローフードはストーリーライフ。これは働くことについての映画である。今まさに世界中の若者たちの間で急速に進んでいく、仕事という言葉の意味の根本的な見直しを描いている。そして、手を、身体をフルに使って生きることについて。生きることと食べるごとの融合、他の命をひだして生きることについて…。ボストン時代の主人公である若者たちにぜひ見てほしい。

あなたにとっての3.11映画は何ですか？

あとの人のオススメの1本

それぞれの人々の中にある3.11。自分にとっての3.11とは？
さまざまな方々に聞いた、今だからこそ観たいオススメの映画を紹介します。

環境運動家、文化人類学者 辻 信一

イントゥ・ザ・ワイルド
ショーン・ベン／2007／148分／アメリカ

根岸吉太郎／1981／135分／日本

遠雷
根岸吉太郎／1981／135分／日本

この映画を見たのは高校時代なので、記憶は曖昧です。全てを捨ててアラスカを目指した青年クリス。震災直後のボランティアセンターや避難所には、彼のような若者が大勢いた。彼らはなぜ「荒野」を求めたのか。そもそも「荒野」とは何だ？ 3.11の現場を駆けた若い人たちに、いま改めて観てほしい作品。

まちづくりと都市計画の専門家／首都大学東京准教授 饗庭 伸

フラガール
李相日／2006／120分／日本

言わずと知れた名作なのだが、これはまちづくりの映画である。見るべきなのは、フラガールズでもその家族でもなく、背景に描き込まれている炭坑のおじさんたち、彼等が少しずつ力を出し合った時こそ「まちが動いた」瞬間なのであり、それはまちづくりにしばしば起きる、奇跡のような瞬間である。3.11のあと、「まち」の復興において、普通の人たちが起こすこういった奇跡に、私たちはどれくらい立ち会えているのだろうか？

NPO法人HUG代表理事（「東北復興新聞」発行人） 本間勇輝

遺体 明日への十日間
君塚良一／2013／105分／日本

ずっと涙が止まなかった。悔しさのか悲しさのか憤りなのか、分からない。でも、目をそむけてはいけない。分かったつもりになってはいけない。あの日々にあった、1つのストーリー。知る事から、全ては始まる。

福島大学特任研究員・社会学者 開沼 博

その街のこども 劇場版
井上剛／2010／83分／日本

3.11によって一番考えたのは、非日常の中にある日常生活を描くことの大切さと難しさ。非日常の中で非日常を描き、強調しながら次馬を集め、喝采を受けるのは表現として難しいことはない。一方、非日常の中に日常を見出し、印象深く表現するのには誰にでもできるのではないか。分かったつもりになってはいけない。あの日々にあった、1つのストーリー。知る事から、全ては始まる。

コミュニティコーディネーター 鎌田千瑛美

天に栄える村
原村政樹／2013／106分／日本

日本一美味しい米作りを目指していた農家の皆さんたちの震災前の生き様と共に、天に昇る美しい農村風景から、多くの学びを感じることの出来る映画です。岡部さんの家の人々の穏やかな塩むすびの美味しさが忘れられません。

種継ぎ百姓 CosmicSeed代表 田村和大

ダムネーション
ベン・ナイト&ラヴ・スマル／2014／87分／アメリカ

私の生業は、種を採り繋ぐ百姓。田畠はたくさんの水を必要とし、その供給元は、上流であるダムだったりする。ダムが川の流れを止め、下流域を汚し、悪影響をもたらす事を意識せず、農業に励んでいた。なんだか、原発と一緒に、生活圏の違うところの悪影響は、考えもない。世の中には、気づくタイミングはたくさんある。行動転換のヒントがこの映画にはあると思う。

#311でつぶやこう！

5年目をむかえる今だからこそ観たい映画、感想やおすすめポイントをぜひ教えてください。



あなたにとっての
3.11映画は何ですか？

あとの人のオススメの1本

それぞれの人々の中にある3.11。自分にとっての3.11とは？

さまざまな方々に聞いた、今だからこそ観たいオススメの映画を紹介します。



「うたごころ」シリーズ
椎葉 健／2011～2013年／日本

時間が経てば絶つほど風化していく震災の記憶。だからこそ伝え続ける。大切な人の心、映画の中のありのままの南三陸の風景、風情、人の呑みがグリートに入り込んでくる。見た人それぞれが様々な感情を感じることができるものだということ。そこには無意識のうちに我々が手放してしまった大切なことがあったんじゃないかと、長く続く余韻とともに考えた作品でした。

南三陸ホテル親御 女将 阿部憲子

「東北記録映画三部作」「うたうひと」
酒井耕一 池田千鶴／2013／120分／日本

かつて日本の農山漁村を巡らせていましたにも何度か出合った、民話、一見易しい言葉に、意味深いメッセージを、心に響く懐かしい音色にのせて…。かなにも、よろびも、いましも、こうして代々受け渡されてきたのだということ。そこには無意識のうちに我々が手放してしまった大切なことがあったんじゃないかと、長く続く余韻とともに考えた作品でした。

一般社団法人つむぎや代表／リソース・コーディネーター 友廣裕一

幸せい经济学
ヘレナ・ノーバーグ＝ホッジ・ステーブル・ゴーリック、ジョン・ペーパー／2010／68分／アメリカ、ニカラグア、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、インド、タイ、日本、中国

3.11は、人間のエゴに気付く機会でもありました。この地球で自然と共存していくとは？ 本当の「幸福」「豊かさ」とは改めて考えさせられました。この映画では「グローバリゼーション」の影響や「ローカリゼーション」について触れながら、未来を見据えた「本当に幸せな暮らし」「豊かな生き方」への様々なヒントが示されています。きっと、身近な地域社会や暮らしに目を向け、人や自然との関係を再考するキッカケになるはずです。

Moonbow代表 いしだともこ

（以下略）

ASAHIZA 人間はどこへ行く
藤井 光／2013／74分／日本

3.11映画はすでに数多くありますが、僕がいつも気になっているのは、それを被災地である仙台の映画館で鑑賞するときと、東京の映画館でおそらく非被災者たちと一緒に見るときの、まわりの空気の違いです。しかし、この映画は、映画館という場所をテーマとし、両者をクロスバッティング手法でつなごと試みています。異なるエリアで暮らす人たちが南相馬の映画館で、同じ夢を見ているのかのようなシーンが印象的でした。

建築評論家 五十嵐太郎

（以下略）

あの街に桜が咲けば
小川光一／2014／40分／日本

陸前高田の若い青年たちが中心となり、ボランティアと共に、2度とこの様な悲惨な体験をしてほしくないという事で、津波の到達地点に桜を植樹する。桜の咲く毎年春に東日本大震災の事を思い出し、将来の人たちに、津波の怖さや防災の重要性を日本人の夫婦が語り継いで伝えて行くというプラン、題材にしたドキュメント映画です。是非多くの方に見て頂きたい作品です。

釣子 明

（以下略）

ダムネーション
ベン・ナイト&ラヴ・スマル／2014／87分／アメリカ

私の生業は、種を採り繋ぐ百姓。田畠はたくさんの水を必要とし、その供給元は、上流であるダムだったりする。ダムが川の流れを止め、下流域を汚し、悪影響をもたらす事を意識せず、農業に励んでいた。なんだか、原発と一緒に、生活圏の違うところの悪影響は、考えもない。世の中には、気づくタイミングはたくさんある。行動転換のヒントがこの映画にはあると思う。

サクリフアイス
アンドレイ・タルコフスキイ／1986／149分／スウェーデン・フランス

核戦争の危機が迫る地球で、男が、祈ることの力を再発見する。無駄かもしれないけれども、枯れた木に水をやり続けること。聖書の一節を引いたリストが印象的。パッションの名曲「マタイ受難曲」の美しいアリアが効果的に使われている。巨匠は、この作品を最後として、まもなく亡くなってしまった。

脳科学者 茂木健一郎

（以下略）

波伝谷に生きる人びと
我妻和樹／2013／134分／日本

この作品には「どう壊れたのか？」ということは何も記録されていない。「何が壊れたのか…」、失われたものの意味を、ただひたすら問われるのみである。被災地の前後を見てきた一被災者として、私はこの作品を多くの人に見てほしいと思う。今、この作品が存在し、目に見えることができる奇跡を共有してほしい。そして自分が失うことになるかもしれない「日々淡々と繰り返される日常」の価値と幸福の意味を再認識してほしい。

現代美術家 椿 昇

アクト・オブ・キリング
クリスティーナ・ジョンク・オッペンハイマー／2012／166分／イギリス、デンマーク、ノルウェー

インドネシアで100万人規模のジェノサイドが実行され、加害者は40年后にカメラの前で虐殺を再演する。ジョンク・オッペンハイマー監督は、すべての人に深く複雑な問いを投げかけた。3.11はこのレベルでのみ記述可能なのではないか。ボリュームのある表現や安易なヒューマニズムを克服する方法を探りたい。

中村政人

椿山・焼畑に生きる-
民族文化映像研究所／1977年／95分／日本

この映画が撮影された約40年前の椿山に行なった、こんなにも厳しい山中で、山の神を祈りを捧げ、シマタヤやソバを植え生きていく椿山の人々の精神的な強さと対峙する生活観に改めて驚きと感銘を受けた。故郷田忠義さんの映像民族学的視点は、私の現代社会で見失ってしまった基層文化の存在とその意義を実直に伝えてくれる。現在のヒーローアイムのドキュメンタリーとは異なる想いだ。未来を創造するために必ず見ておかなければならない作品だ。

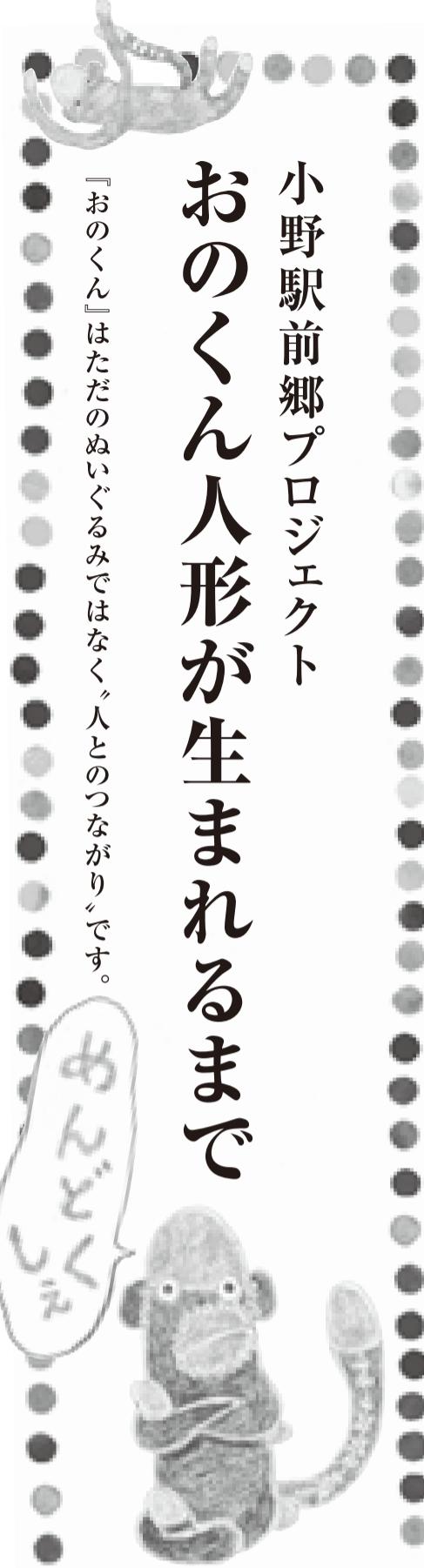
竹内昌義

小さき声のカノン 選択する人々
篠伸ひとみ／2014／119分／日本

ほぐく、エネルギーのことをいろいろ考える様になったのは篠伸監督の「ミツバチの羽音と地球の回転」を見たからだ。祝島の原発反対運動と北欧の再生可能エネルギーの発展のパラレルストーリーを見たからだ。原発とエコハウスをつなげて考えられる様になった。今回、推薦するのは「小さき声のカノン 選択する人々」。淡々と事実が積み重ねられて、いろいろ考える機会を与えてくれる。本当に必要なのは原発事故が起ったときに目を背けることではなく、今福島でなにが起きているかちゃんと把握し、歴史を重ねたベルーシから学ぶことだと思う。

みかんぐみ

小野駅前郷プロジェクト おのくん人形が生まれるまで



「おのくん」はただのぬいぐるみではなく、人とのつながりです。

初めは「めんどくしえ」とばやきあつていた

カラフルモンキー「おのくん」は、靴下の柄や縫い方によって同じものはひとつもなく、その個性的で愛嬌のある姿がかわいいと評判に。今や予約が1年待ちという人気ぶりだ。

応急仮設住宅で生まれた復興を願うキャラクター。お母さんたちが靴下を縫い合わせ、綿をつめて手作りするぬいぐるみ

11年8月にこの仮設住宅に入つてから、とにかく暇だったんで

まだまだ道なかば。

でもやっぱり復興なんて、めんどくしえ！

東北の魅力は人と思う。



小野駅前郷プロジェクトのほかあさんも「めんどくしえ」とばやきながら、図子のぬいぐるみ「おのくん」を作つています。

小野駅前郷仮設住宅
〒961-0001 芽室真東郡小野町御井字御井町3-50-3

写真提供:aCtion!×tohoku/第62回日本観光ボスター・コンクール審査員特別賞受賞

それでも、ぬいぐるみを見たボランティアの人たちが「かわいくないけど、なんか笑えるよね」と興味を持つてくれ、「売れかは別として、とりあえず東松島に来てもらって、かわいい。かわいくないとか話のネタにしてもらわればいいのかな」と制作を続けることに。

ぬいぐるみの苗字は、お母さんたちのばやきからとて「めんどくしえ」に、名前は小野仮設住宅から「おのくん」に決定。「3分で即決しました」と武田さんは笑う。

ぬいぐるみの苗字は、お母さんたちのばやきからとて「めんどくしえ」に、名前は小野仮設住宅から「おのくん」に決定。「3分で即決しました」と武田さんは笑う。

予約が殺到しても
来てくれた人が
絶対優先



次世代につなぎたい
自分たちの場所
「空の駅」で

実はこの2月から、約半数の

未来に夢を膨らませる。

- トリプルボランティアツアー**
2015年3月20日(金)～22日(日)1泊3日(車中1泊)
貸切バス利用 ¥26,500
<http://jtb-volunteer.com/>
- ボランティアバスパックツアー(南相馬市)**
2015年3月6日(金)夜、3月13日(金)夜発(0泊2日)
東京駅(22:30発)～大宮駅(23:30発)経由便
お一人様 ¥12,000
<http://jtb-volunteer.com/>

お問い合わせ先

JTB関東法人営業埼玉支店 ボランティアツアーデスク
048-644-5313(平日9:30～17:30)

現在募集中のツアー

- トリプルボランティアツアー**
2015年3月20日(金)～22日(日)1泊3日(車中1泊)
貸切バス利用 ¥26,500
<http://jtb-volunteer.com/>
- ボランティアバスパックツアー(南相馬市)**
2015年3月6日(金)夜、3月13日(金)夜発(0泊2日)
東京駅(22:30発)～大宮駅(23:30発)経由便
お一人様 ¥12,000
<http://jtb-volunteer.com/>

ボランティアバスツアー

おのくんのつくり手にも会える！

JTBグループは、東日本大震災以降、積極的な震災復興支援活動にとりくみ、自社グループの強みでもある「旅の力」を通じ東北の人々とともに魅力あふれる東北の未来づくりを目指している。

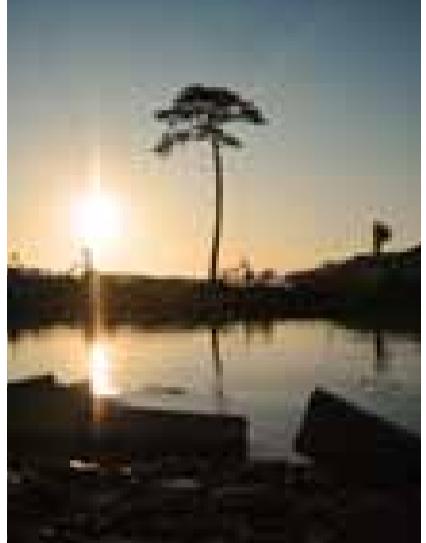
それは、みんなが集まりおのくんを作る工房としてだけでなく、外から訪れる人に東松島の棚にはいつでもおのくんが並んでいます。ひとりでも多くの人に東松島に足を運んでほしい」という思いで始めたので、ここを訪れる方が優先。それだけは絶対に崩したくないです。

そのかいあって、土日には今も約100人ずつ、平日でも20～30人の人々が訪れる。こんなに人気が出るなんて想像もし難かったというが、「お客様のなかつた」という、「おのくん」作りをスタートし、石線が開通する5月31日に合わせ、何らかの形でオープンしたいという。

武田さんは活動についての思ひをこう話す。

「おのくん」作りをスタートし、次第にみなさん協力していただけたようになりました。だから、「ただのおばちゃんでも、お金がなくても、こんなふうにでいる人生は、おのくんで一変した。これまで、私たちは震災のつらさを言い合うことはあつても、決して涙を流すことはできませんでした。でも2年目に学生さんや団体さんが来て震災當時の話を聞いてくださつて、ようやく涙を流せた。それですつきりして、みんなの笑顔も前と全然違つて、もう前に進むしかな

わわの写真



陸前高田4年 -心の支えができるまで-

街中が累々と積み重なる瓦礫の覆われたあの日から4年。“日常”を取り戻すにはまだ、途方もない道のりが残されている。それでもこの街で築かれてきた宝物が再び輝きだすその瞬間に、そっとシャッターを切った。[安田菜津紀]



Fragments -魂のかけら-

そこは両親の住む街だった。取材地から緊急帰国、目の前に広がるのは瓦礫の荒野と化した陸前高田市だった。命の存在を感じない荒涼たる風景に、死臭の混じった海風が吹き抜ける。4年。その歳月の中に見た、破壊と再生、死と生の織り成す景色。人々の、祈りと、息吹。[佐藤 慧]



芦屋桜

町を見守る年老いた桜。これ以上ないほどに咲き誇って、芦屋の最も美しい季節を染めている。阪神淡路大震災から20年。今は明るい町で静かに語りかける。目の前に佇む桜を撮影すると、次々と桜たちに招かれ、町の隅々まで巡り続ける。生まれ育った町との絆を確かめながら、僕は桜の風景を撮る。地域の大切な資産、守りたい情景、記憶の風景を撮る。[川延昌弘]

3.11映画祭 写真スライドショー展示

3.11映画祭では、会期中の平日にこちらで紹介している3名の作家による写真作品をスライドにて展示いたします。映画上映が行われる会場、大きな画面でゆっくりご鑑賞ください。

2015年2月23日(月)～3月13日(金) 平日:12:00～19:00

会場:アーツ千代田3331 1F 特設会場(東京都千代田区外神田6-11-14)
入場無料 お問合せ:コマンドN TEL:03-2518-9101



南三陸町は分水嶺に囲まれた町。この町に降った雨や雪はほぼすべてが志津川湾に注ぐ。海は山からの恵みで育まれ、山は海からのヤマセで育まれる。この地に住まう人は、昔からこの自然とともに生きてきた。あの津波を越えるエネルギーも、そんな暮らしで育まれた。「しなやか」な強さだと感じる。ある日、町の若者たちと防潮堤建設現場に立つた。すると二人が大声で「いい眺め！」と叫ぶと全員が斜面を駆け上がり、受け入れるエネルギーこそ、山に入る別時間がある。町は再生の道を歩んでいるが、山に入ると別の時間が流れ、命をはるかに越える時空

生きる木々が、町の基盤を支えるごとくそびえ立つ。この地は伊達政宗に見出された林業地であり、特有の気候が少し赤みを帯び身が詰まった背の高い木を育む。いま世界基準の森林認証FSCを取得し、様々な製品を造り出す産業を興そぐと動き始めている。

「南三陸を山から語る」プロジェクト。薪炭林、茅場、そして林業人が山を畑にした時代には、イヌワシを頂点とする豊かな生態系がここにはあった。いま、林業を強くすることが答えを導くと信じて、老若男女が世代を越えて山とともに生きる町を創造する。

僕は、この町の人たちと一緒に想いをカタチにしながら、地域の大切な資産守りたい情景、記憶の風景を撮る。

「山とともに生きる」

南三陸町のもうひとつの物語



山にチェーンソーの音が響く



山里の魅力を楽しむ縁がわアート



静かに佇む林業地より志津川湾を望む



12代続く南三陸の林業家



長伐期の山も緊急時は命を繋ぐ道になる



雪化粧した土場で出番を待つ



山の歴史を語り未来を確かめる夜



自然と共生する町づくりを提案する「かもめの虹色会議」



250年の歴史を持つ入谷の打囃子

写真・文：川延昌弘（かわてい・まさひろ）

1963年兵庫県芦屋市生まれ。日本写真家協会（JPS）会員。博報堂CSR推進担当部長。一般社団法人CEPAジャパン代表。「地域の大切な資産、守りたい情景、記憶の風景を撮る。」をテーマに活動。阪神淡路大震災で被災。故郷を撮り続け写真集を出版。森の国でもある日本の地域産業を考えるべく三重県の林業家を撮影し個展などを開催、現在は南三陸の林業を撮影中。環境問題から震災復興まで取組み地域づくりにも携わる。

紹介されていて、様々な視点から作られた映画が興味深いです。（廣澤）

3.11映画祭のドキュメンタリーの映画が気になります。（遠藤）

映画を見るとも私たちができる小さなひとつと石巻やいわきなど上映会も。（高村）

編集後記

【読者プレゼント】プレゼントをご希望の方は、応募用紙にご記入いただき、ハガキまたはメール、FAXにてお送りください。
＊締切は4月30日（木）[必着]とさせていただきます。＊プレゼントの当選は発送をもってかえさせていただきます。



① DVD「家路」<5名様>

原発事故により故郷を失った家族の再生の物語。主人公の松山ケンイチ、田中裕子、安藤サクラなど実力派俳優が競演。



② 書籍『「あの日」からぼくが考えている「正しさ」について』<5名様>

作家・高橋源一郎氏が3.11以降にツイッターや各媒体で発表したものをまとめた一冊。この書籍の一文が3.11映画祭のイメージコピーになりました。（河出書房新社）



③ “世界一おいしい”お米「天榮米」<5名様>

ドキュメンタリー映画「天に栄える村」では放射能に立ち向かう農家の人々の苦戦と挑戦を追っています。



④ 書籍「つくることが生きること」<10名様>

3.11から1年5ヶ月間に生まれたアーティストによる多様な支援活動や復興リーダーのインタビューを収録。368ページの読み応えある1冊。

【ハガキで応募】

応募用紙をハガキに貼り、以下の住所までお送りください。

〒101-0021 東京都千代田区神田錦町2-1
わわプロジェクト「わわ新聞14号 プレゼント」係

【FAXで応募】応募用紙を03-3518-9102までお送りください。

【メールで応募】応募用紙内の項目をメール本文にご記入いただき info@wawa.or.jp までお送りください。

プレゼント応募用紙【ご記入欄】

●住所:	〒		
●氏名:	年齢		
●電話番号:			
●希望するプレゼント(いずれかに○をつけてください)			
<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④
●『わわ新聞』をお読みになった感想			
●『わわ新聞』を入手した場所			
●『わわ新聞』で今後取りあげてほしいこと			

14

わわプロジェクトの活動は、平成24年4月より中外製薬株式会社の支援を受けています。
赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

発行元／わわプロジェクト
一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN
東京都千代田区神田錦町2-1
TEL／03-3518-9101
FAX／03-3518-9102

印刷／株式会社北鹿新聞社
イラスト／遠藤麻衣
デザイナー／廣澤祐子
メーリング／info@wawa.or.jp
ウェブサイト／http://wawa.or.jp
編集／高村陽子・田山奈津子
写真／川延昌弘
写真撮影／川延昌弘